

磐 梯 山

(2017年1月20日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

概況（2016年9月～2017年1月20日）

- ・噴気等の表面現象の状況（図1、2、図3- ）
 剣ヶ峰に設置している監視カメラによる観測では、山体北側火口壁の噴気の高さは50m以下で、噴気活動は低調な状態が続いている。櫛ヶ峰に設置している監視カメラによる観測では、沼ノ平周辺に噴気は認められなかった。
- ・地震活動（図3- ～ 、図4、5）
 火山性地震は少ない状態が続いており、火山性微動は観測されなかった。
- ・地殻変動（図7、8）
 GNSS 連続観測及び傾斜計では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。



図1 磐梯山 山体北側火口壁の噴気の状況
 (2016年11月27日)

- ・剣ヶ峰（山頂の北約7km）に設置している監視カメラによる。
- ・実線赤丸で囲んだ部分が山体北側火口壁からの噴気で、この時観測された噴気の高さは50m。



図2 磐梯山 沼ノ平周辺の状況
 (2016年12月27日)

- ・櫛ヶ峰（沼ノ平の北東約600m）に設置している監視カメラによる。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。

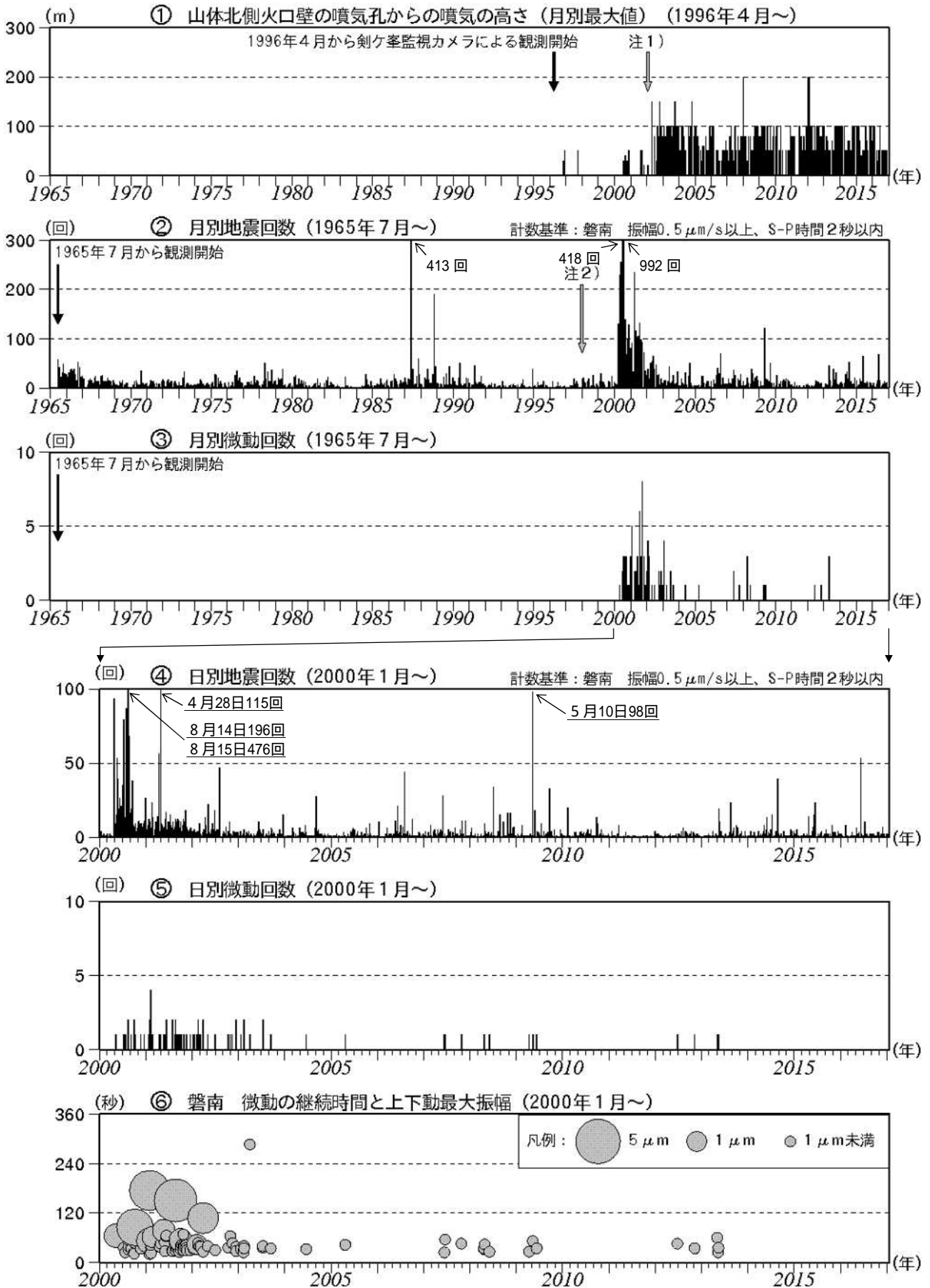
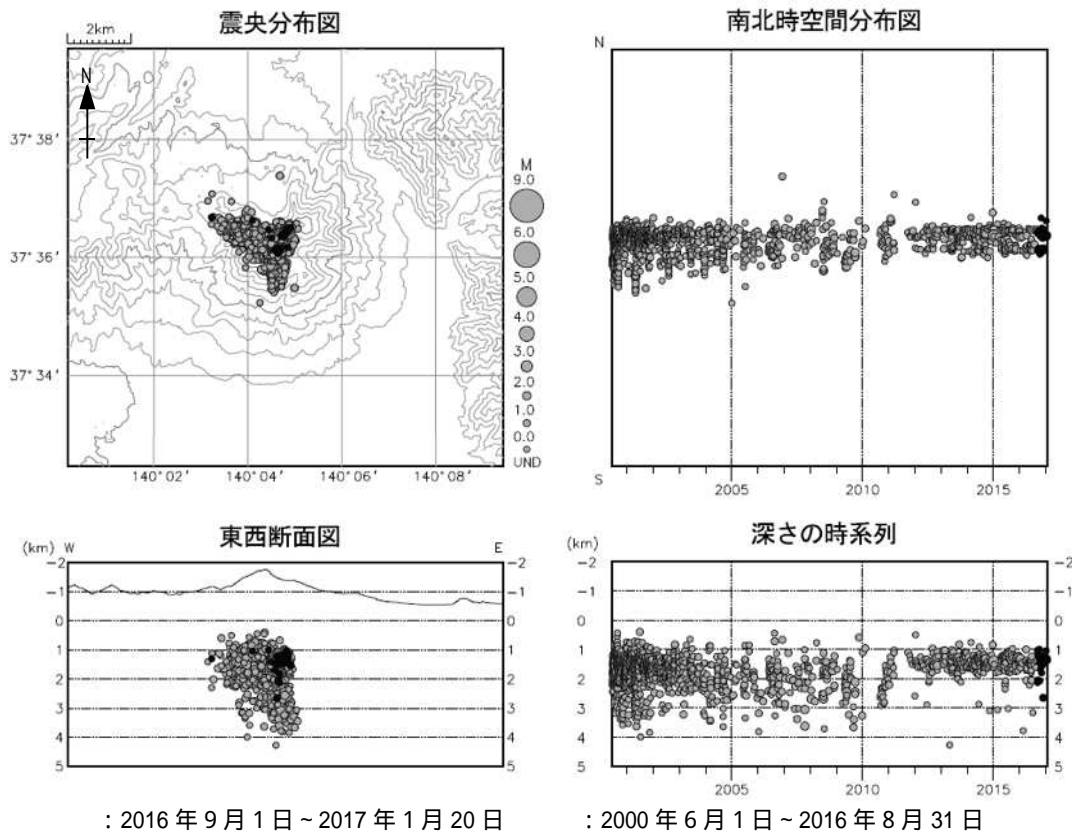


図3 磐梯山 火山活動経過図（1965年7月～2017年1月20日）

- ・ 注1) 2002年2月以前は定時(09時、15時)及び随時観測による高さ、2002年2月以後は全ての時間で観測したデータによる高さによる。
- ・ 注2) 1998年より計数基準をS-P5秒以下からS-P2秒以下に変更した。

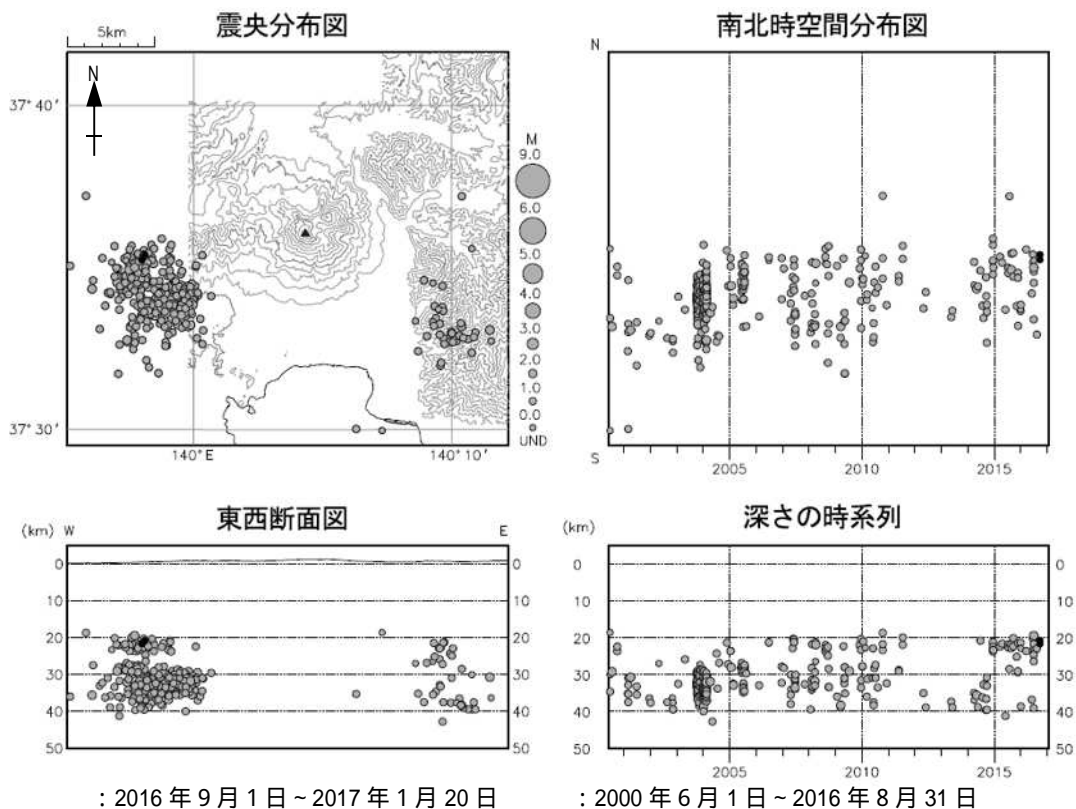


：2016年9月1日～2017年1月20日

：2000年6月1日～2016年8月31日

図4 磐梯山 震源分布図（2000年6月～2017年1月20日）

- ・表示条件：相数7相以上、緯度経度計算誤差0.2分以内、深さフリーで決まった地震
- ・速度構造：成層構造（観測点補正あり）
- ・この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用した。



：2016年9月1日～2017年1月20日

：2000年6月1日～2016年8月31日

図5 磐梯山 一元化震源による深部低周波地震活動（2000年6月～2017年1月20日）

注）2001年10月以降、検知能力が向上している。

- ・この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用した。
- ・表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

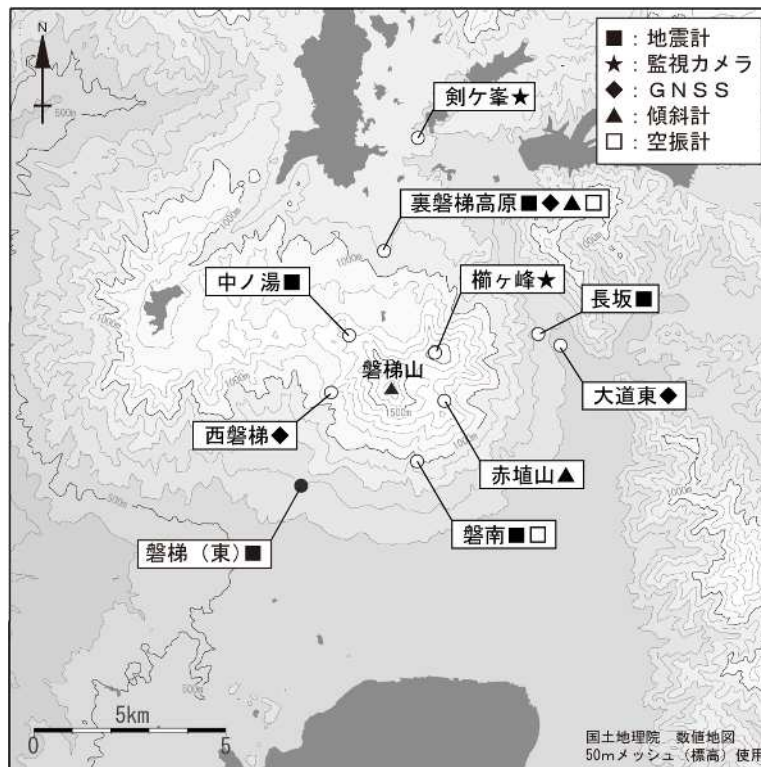


図6 磐梯山 観測点配置図

小さな白丸()は気象庁、小さな黒丸()は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。

(東): 東北大学

中ノ湯、櫛ヶ峰、赤埴山: 2016年12月1日運用開始。

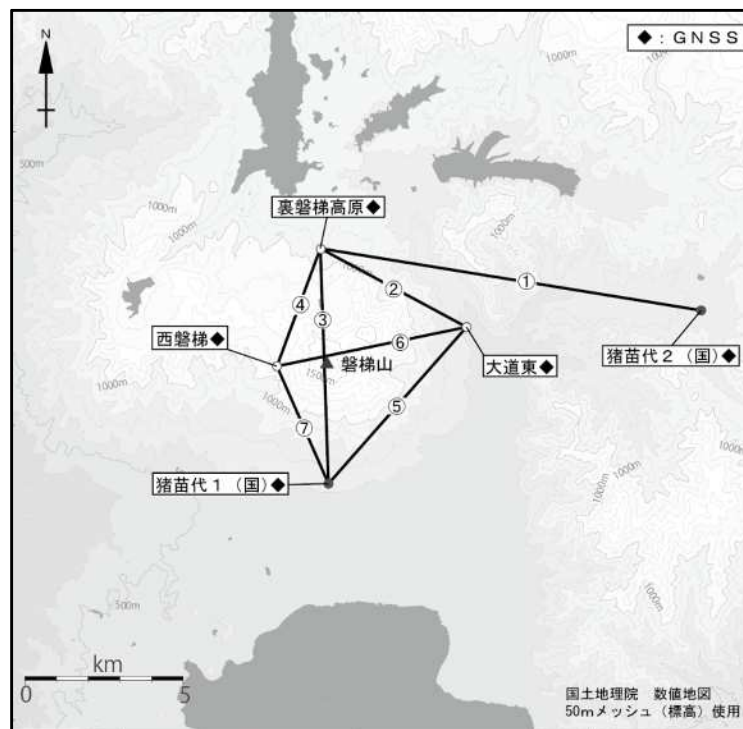


図7 磐梯山 GNSS 観測点配置図

小さな白丸()は気象庁、小さな黒丸()は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。

(国): 国土地理院

GNSS基線 ~ は図8の ~ に対応している。

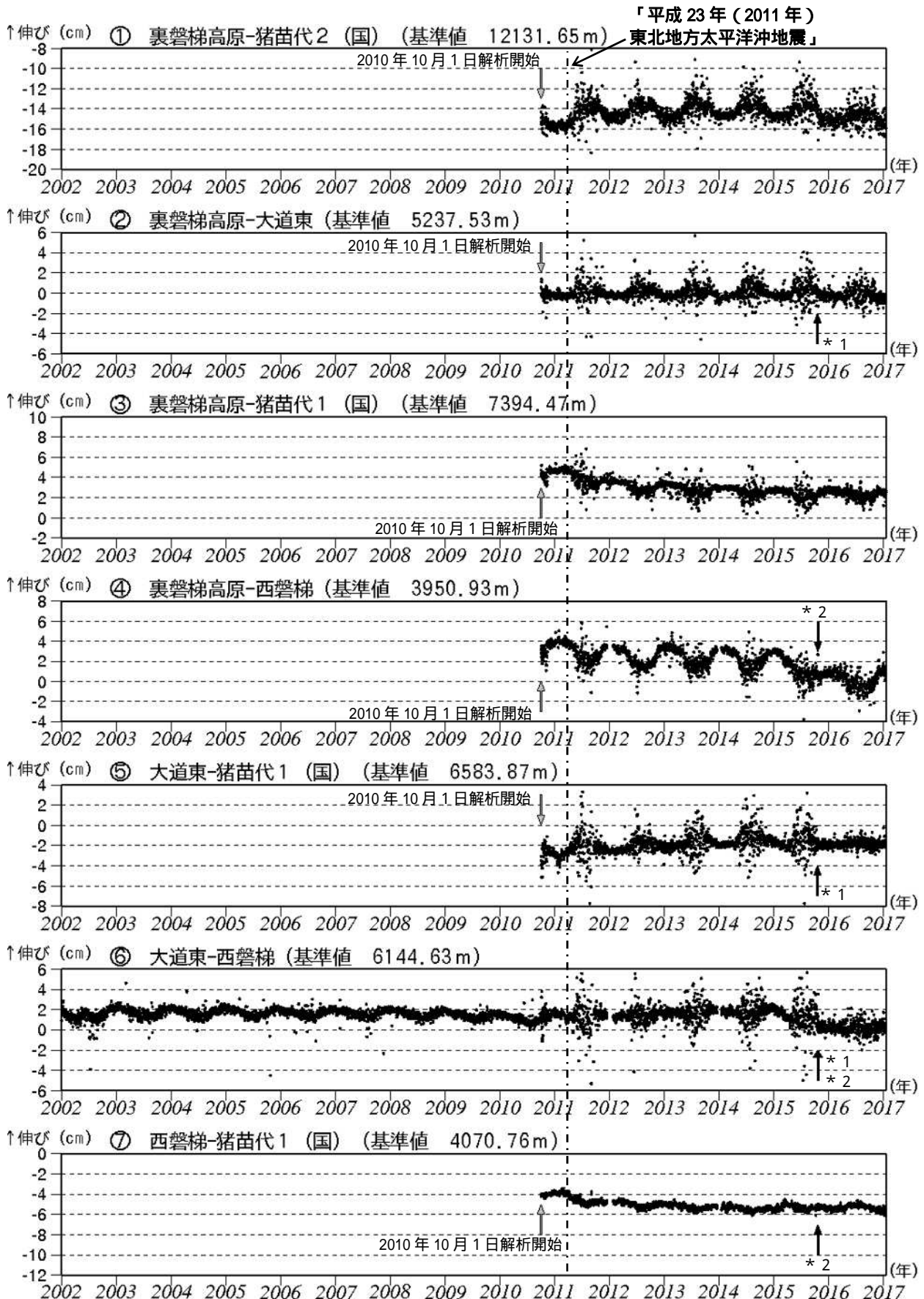


図 8 磐梯山 GNSS 基線長変化図 (2002 年 1 月 ~ 2017 年 1 月 20 日)

- ・火山活動に起因する変化は認められない。
- ・2010 年 10 月以降のデータについては解析方法を改良し、対流圏補正と電離層補正を行っている。
- ・平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震に伴うステップを補正している。
- ・ ~ は図 7 の GNSS 基線 ~ に対応している。(国) は国土地理院の観測点を示す。
- ・グラフの空白部分は欠測を表す。各基線の基準値は補正等により変更する場合がある。
- * 1 大道東観測点の機器更新及び移設。 * 2 西磐梯観測点の機器更新。